

9万年前の できごと

この滝がどうやってできたか詳しくはわかつていませんが、滝を形づくっている岩は実は大きな一枚岩で、このおおいた豊後大野ジオパークに呼ばれる岩石で、今から9万年前、大噴火によって生まれた石で、今から9万年前、大噴火によりておきた火碎流により、もたらされました。46億年と言われる地球活動から比べるとわずか9万年前のできごと、しかし、我々にとっては古く、とてつもなく大きなできごとでした。

3 柱状節理とポットホール

火碎流は冷えて固まる際、収縮し多くのヒビを生みました。このヒビ割れは、タテ方向にのび、まるで柱を並べているように見えることから「柱状節理」とよばれています。滝がまっすぐに切り立つ理由はこの柱のような岩が倒れるように崩れるからです。

また、滝の上では、無数のポットホール（うす穴）が見られます。水の流れに運ばれた石は岩盤を削り、穴や溝をつくりました。わずか9万年前に誕生したこの岩は、崩れやすく削られやすいのが特徴です。



原尻橋

大正12年(1923)に建設されたアーチ式の5連橋です。大正時代になって豊肥線に緒方駅ができると、「これまでの木橋では、文物の交流においていかれる」と地元の人々が奮起しこの石橋を建設しました。この石橋の素材は、この地でたくさんとれる阿蘇溶結凝灰岩です。岩石としては加工しやすい石であることから、他にもこのような石橋が多く作られました。



滝上のポットホール

緒方二宮八幡社

原尻の滝より上流の両側には水路(井路)の取水口が多くあります。緒方下井路、原尻井路、野仲井路、緒方上井路のほか、上流にもあります。このように滝をきっかけとして、より上流から水を取ることで多くの土地に水が掛かることになりました。

大噴火のつめあと

9万年前の阿蘇山の大噴火では、上空に1万メートル以上の噴煙（火山ガスや溶岩や岩、火山灰など）があがったと言われています。その噴煙が崩れおちたものが火碎流になりました。その量があまりに膨大であったため、もともと低地であった大野川流域は、すべてこれに埋め尽くされ、再び溶けたあとゆっくり冷えて固りました。これが「阿蘇溶結凝灰岩」と呼ばれる岩石となりました。



「川越し」は約1時間かけ行われ、三宮と二宮の氏子が力を合わせます。

11月の下旬、この滝の上をお神輿が渡る、緒方三社川越しまつりが行われます。この祭りは毎年11月の下旬に行われる、緒方一宮、二宮、三宮、そしてその三社を集めて祝う人々の祈りが見て取れます。三社が揃った翌日には、直会の宴が催され、滝の上に勇壮な緒方三社神楽の奏楽と人々の歓声が響きます。

左岸にある三宮の神輿は滝の上の川を渡り右岸の二宮社まで川越しします。そして、この川越しの際に、緒方下井路の取水口に必ず神輿を入れ練り歩きます。これに

は、水を滞りなく運んでくれる水路に対し、感謝と繁栄への祈りが込められており、滝の上だからこそ成立した水路と、それを見守る一宮、二宮、三宮、そしてその三社を集め祝う人々の祈りが見て取れます。三社が揃った翌日には、直会の宴が催され、滝の上に勇壮な緒方三社神楽の奏楽と人々の歓声が響きます。



緒方三社川越しまつり

1 阿蘇の大噴火が作った岩

ここに置かれている岩は、阿蘇溶結凝灰岩です。滝の岩と同じ9万年前にもたらされた火碎流が冷えて固まったのですが、よく見ると、黒いシマ模様があるのに気が付きます。これは、火碎流に含まれていた軽石が強い圧縮をうけつぶれたものです。滝の上の岩にも同じような模様がたくさんあり、上から見ると円形に、横からみるとレンズや筋のようになっています。火碎流の固まり方は所によって異なりますが、この滝は強く固まった部分で、圧縮された軽石がその証拠となります。

